

米国 2023-24年度の柑橘類の生産量は6%増加

[FreshPlaza 2025年3月3日](#)

2023-24年度シーズンの米国の柑橘類の出荷量は合計524万ショートトンで、2022-23年度シーズンに比べて6%増加した。カリフォルニア州は米国の柑橘類の総生産量の79%を占め、フロリダ州は合計17%、テキサス州とアリゾナ州が残りの4%を生産した。(1ショートトン(米トン)はメートル法の約907.18kg)

2023-24年度フロリダ州の出荷量は2,020万箱で、前シーズンの1,810万箱から12%増加した。フロリダ州のオレンジ出荷量は1,800万箱で、前シーズンから14%増加した。フロリダ州のグレープフルーツの出荷量は179万箱で、前シーズンに比べて1%減少した。2023-24年度のタンジェリンとタンジェロの出荷量は、前シーズンから6%減少した。(郡別の記述省略)

2023-24年度の米国の柑橘類の出荷額は、昨シーズンから16%増加し、29億8千万ドル(梱包施設出荷額換算)となった。オレンジの出荷額は昨シーズンから2%増加し、グレープフルーツの出荷額は4%増加した。タンジェリンとマンダリンの出荷額は昨シーズンより34%多く、レモンの出荷額は22%増加した。

輸出

生鮮果実の輸出量は4/5ブッシェル箱(通常、約40ポンド(約18kg入り))で合計39万5千箱であった。ベルギーはフロリダ州産グレープフルーツの輸出量のほとんどを受け取った。カナダはフロリダ州産のオレンジとタンジェリンの輸出の大部分を占めた。詳細は報告書の26~27ページに記載されている。2023-24年度シーズンには、合計175万ガロンの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)が輸出された。(1ガロンは約3.785リットル)

報告書(フロリダ州柑橘類統計2023-2024)の全文は[こちら](#)

ブラジル 低品質と果汁の国際価格下落で加工用オレンジが安値

[Cepea 2025年3月5日](#)

Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)、2025年3月5日 - 果実の品質が低いこととオレンジ果汁の国際価格の低下により、加工用オレンジの価格が2月下旬に大幅に下落した。例えば、2月24日から27日までの平均価格は40.8kg箱当たり74.29リアルで、前の週に比べて6.55%低く、2月中に16%下落した。(1ブラジルリアル=約26円)

Cepeaが調査した関係者らは、オレンジの品質が年初から低下し、糖酸比が加工に望ましい水準よりも低くなり、これがオレンジ果汁の品質に影響を与えていると述べた。

この低品質の状況は、2024/25年度には複数回の開花が記録されたという事実に関連しており、その結果、成熟度の異なる果実(成熟したものと未熟なもの)が収穫され、加工用に仕向けられるオレンジの平準化に影響を与えた。

輸出への影響 - オレンジの供給量の減少と果実の品質上の制約により、オレンジ果汁の出荷が制限されている。Comex Stat(ブラジルの貿易統計)のデータによると、非濃縮(NFC)オレンジ果汁(NCM(マルコスール共通関税分類コード)20091200)の輸出は、前のシーズンの確定値に比べて振るわない。ブラジルの2024/25年度これまで(2024年7月~2025年1月)の果汁の出荷量は合計109万トンで、前シーズンの同時期に比べて3.4%少ない。

タヒチライムの出荷 - ブラジルのタヒチライムの輸出は、2024年に記録的な量に達した後も順調に推移している。ブラジルは今年1月に、2024年1月と比較して18.1%増となる1万7,150トンのタヒチライムを出荷し、1月の最高を記録した(経済省貿易局(Secex)のデータによる)。同じ月の輸出額は1,482万6千ドルで、同13.4%増加した。